

2023 年 9 月 1 日発行
2024 年 2 月 13 日更新

2024 年度 経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2024 年度 経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目 次

演習のすすめ … 2
 教員によるゼミの紹介 … 3～46

経済学科	頁
大石尊之	3
大村真樹子	4
岡本実哲	5
神山恒雄	6
洪潔清	7
神門善久	8
児玉直美	9
小林正人	10
齋藤隆志	11
齋藤弘樹	12
坂本陽子	13
佐々木百合	14
白井誠人	15
鈴木岳	16
宋立水	17
高松慶裕	18
田中淳一	19
田中鉄二	20
中村友哉	21
室和伸	22

経営学科	頁
飯田浩司	23
五十嵐千尋	24
稲山健司	25
大竹光寿	26
尾畑裕	27
北浦貴士	28
佐藤成紀	29
中野暁	30
西村三保子	31
西山由美	32
浜口幸弘	33
林祥平	34
森田正隆	35
吉田真	36

国際経営学科	頁
井川ジェニファー	37
大野弘明	38
岡崎哲二	39
加藤木綿美	40
木川大輔	41
工藤健太	42
小滝秀明	43
西原博之	44
藤田晶子	45
マイヤーオーレヘンドリック	46
山田純平	47

演習のすすめ

2023 年 9 月 1 日

経済学部長 藤田晶子

演習は、これまでの大教室での受動的な講義とは異なり、教員の丁寧な指導のもとに、仲間とともに主体的に調査・研究をすすめ、いろいろな視点から一つのテーマをとことん深掘りしていく場です。問題提起から課題解決にいたるまで、社会で必要不可欠な論理的思考をつちかう場でもあります。

演習の魅力は、一言では言い尽くすことができません。

履修者はわずか 10 人程度の少人数ですので、教員やその研究を身近な存在として感じることができる貴重な機会です。国内外で生起する経済問題を議論し、ときに人生についても語り合える仲間は、一生の宝物（たからもの）ともいえるでしょう。調査・研究・プレゼンはもとより、飲み会や合宿、OBOG との交流会、他大学のゼミとのディベートなど、まさに「これぞ大学！！」が演習です。

ゼミナールガイドブックを読んで、各教員の演習内容をしっかりと把握したうえで、自分が研究したいことを考え、どの演習に応募するかを選んでいただきたいと思います。

みなさんの大学生活をより充実したものにするために、ぜひ、演習を経験してみてください。

大石 尊之 ゼミナール

演習のテーマ

法と経済学（ブロックチェーンと法のゲーム論的分析）

演習の内容

学生の皆さんは、法律と聞くと、例えば、六法（憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法）等を想起するかもしれませんが、私たちの日常生活や企業活動を円滑にするうえで法律が欠かせないという認識では一致していると思います。1960 代以降、主に米国で発展してきた、法と経済学は、どの国においても中心となるような法領域を分析対象としており、所有と財産権や不法行為に関する法、契約法、刑法、競争法・知的財産法や国際法などが研究されてきました。私自身は、市場理論、ゲーム理論およびグラフ理論といったミクロ経済学やネットワークの数理分析の手法を通じて、因果関係が複雑な不法行為法の問題を規範的に分析したり、所有権の形態がどのように市場と法制度の双方を通じて内生的に決定されるのか等を分析したりしています。最近、研究代表者として「ブロックチェーンと所有権の経済分析」というプロジェクトを立ち上げ（2023 年度明治学院大学産業経済研究所プロジェクトに採択）、学内外の経済学者・法学者・経営学者の研究プラットフォームの構築と当該研究を推進して、デジタル時代の新しい法制度のデザインに向けた基礎理論の構築を目指しています。

私は「法と経済学」を、法制度や法律の社会的パフォーマンスを評価したり、規範や慣習を含む法的ルールが市場や組織とどのように関連しているのかを明らかにしたりするための経済学として位置付けています。このような観点から、これまで 3 年ゼミでは、競争法の実際の運用とその法学的意義を経済学的に再検討することや、法と代替・補完的な機能をもつ規範、慣習のメカニズムを情報のゲーム理論の有益なツールの 1 つであるシグナリング・ゲームを通じて議論するために、法学者や（法と）経済学者が書いたテキストを輪読してきました。また、4 年ゼミでは卒論執筆に向けて、各自が興味ある法と経済学に関する研究テーマに即して、論文指導をしています。ゼミ生は、私が担当する「法と経済学 1&2」を履修することが必須となっており、この科目履修を通じて、法と経済学の基本的な考え方を学ぶことになります。

2024 年度は、デジタル通貨などの基盤技術であるブロックチェーン技術が様々な法制度に与える影響を、ゲーム論的に分析することをテーマにしたいと思います。使用するテキストは、ブロックチェーンの法学的分析の先駆的著作であるテキストの邦訳本である「ブロックチェーンと法：＜暗号の法＞がもたらすコードの支配」（プリマヴェーラ・デ・フィリッピ&アーロン・ライト 著、片桐直人 編訳、弘文堂、2020 年）を予定しています。現実の法律やブロックチェーン技術が社会に与える影響やその相互作用に関心を持ち、またゲーム理論の応用にも関心がある、学生の参加を歓迎します。

大村 真樹子 ゼミナール

演習のテーマ

Health Economics (健康・医療経済学)

演習の内容

本ゼミナールでは、健康・医療経済学を学びます。健康・医療の分野から、複雑な現実の経済社会問題を考察します。健康・医療は私達の幸福・厚生にとり重要な要素です。その社会的仕組みや、関連する私達の行動を理解することは、そうした厚生の改善にも繋がると考えられます。

健康・医療経済学は、医療制度の社会費用便益といった側面だけでなく、「健康とはどのような財なのか」「健康に気を遣う人とそうでない人との違いは？」「健康と年齢との関係は？」「なぜ健康に悪いとわかっていながらタバコを吸い続けるのか」「なぜ追加で民間の健康医療保険に加入するのか」といった私達に身近な疑問を考察することにも有益なツールを提供してくれます。

大村ゼミナールでは 3 年次では、ゼミ生はテキストを輪番で発表し、討論に積極的に参加することが求められます。ゼミで採用している教科書は邦訳版がない英語のテキストブック Bhattacharya, Hyde and Tu 著“Health Economics”になります。このため、ゼミ生同士で協力して内容の理解に努め、発表を準備することが必要となります。同時に 4 年次から本格的に取り組む卒業論文にも、3 年次の中頃から取り組み始めます。

本ゼミナールの目的は、全世界あらゆる人々と関わりのある「健康・医療」の問題を考察し、経済学的に分析する手法及び、分析したものを的確に表現する一論文を書く・発表をする一力を身につけることにあります。こうした能力は将来、どのような分野に進もうとも有用な資産となるでしょう。また、様々な理論や事例を学ぶことで、多様な経済社会事情に対する造詣を深め、視野を広げることが期待されます。

岡本 実哲 ゼミナール

演習のテーマ

ミクロ経済学・ゲーム理論の応用—オークション，マッチング，社会的選択理論

演習の内容

このゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計をテーマに学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション（競争入札）は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのかを分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計、産業組織論、契約理論、行動経済学、SDGs の経済学などの関連分野も扱います。ゼミは、経済学の考え方を養うことも当然ですが、経済学を通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらいます。原則、3 年生はグループでの研究発表、4 年生は個々人で卒業研究の発表を行います。

また、3 年生と 4 年生が合同でゼミを実施していくため、横の繋がりだけでなく縦の繋がりも強いのがこのゼミの特徴です。

神山 恒雄 ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで3年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

4年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めるのですが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問はE-mailを利用してください。オンラインでの面談の必要があれば日時を相談します。(アドレスは kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp)

洪 潔清 ゼミナール

演習のテーマ

経済成長に伴う中国の経済・社会・文化事象の変化を考える

演習の内容

この演習では、2000 年以降中国経済の急成長に伴う中国の経済、社会、文化的変遷、そしてこれらの変化が人々の意識にどのような影響を与えてきたかを考える。

2000 年以後に生まれた多くの大学生は、過去 20 年間で中国が経験した改革について十分に知らないかもしれない。2000 年にまだ世界で 6 位であった中国の GDP が 10 年後日本を追い越して 2 位となり、その後も世界 1 位であるアメリカとの差がさらに縮まった。これほど大きな変化が起きた隣国の中国に対して、一部の学生はまだ曖昧な印象しか持っていないようだ。そこで、この演習では、まず『チャイナテック 中国デジタル革命の衝撃』（東洋経済新報社）を参考文献として読み、最新の中国事情を理解し、中国に対する知識を深めます。次は以下のテーマ（参加者のニーズに応じて調整可能）を中心に詳しく検討する。

- 1) 中国のデジタル革命の実像 - ABCD 5G
- 2) キャッシュレス決済普及の光と影
- 3) 国民的な SNS アプリ「Wachat」の影響力
- 4) インフラ整備による高速鉄道や地下鉄の建設ブーム
- 5) SNS 型 EC の拡大実態
- 6) 中国のゴミ分別の現状

進み方として演習 A1 と A2 では、上記のテーマに基づいて文献を読み、関連資料を収集し、グループ内でのディスカッションや授業でのプレゼンテーションを行う。状況に応じて、オンラインで中国の大学生との共同ディスカッションを行うことも検討する。学期末に各自が発表した内容を整理し、レポートとして提出する。3 年次の秋学期のレポートは 4 年次の卒業論文のテーマに結びつけ、日中の比較の視点から考察してほしい。4 年次の演習 A3 と A4 では、主に卒業論文のテーマの確定と執筆指導を行う。

なお、中国圏の経済や社会に関する知識の中に中国語の専門用語が出てくることが考えられるため、中国語を履修した学生または中国に関心を持つ学生の参加が望ましい。

神門 善久 ゼミナール

演習のテーマ

経済学に何ができるか

演習の内容

経済学部に進学して 2 年経って、高校時代に比べて経済学的思考は高まったといえるだろうか？そもそも、経済学は有用なのだろうか？さまざまな事例（マスコミや学界で報道・報告されている事例）を通じて、こういう根本的問題を問いたす。

児玉 直美 ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか？」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか？」「補助金にはどの程度の効果があったか？」「教育現場で、どの教材が効果があったか？」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージやSNSを利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか？

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか？この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を繰り返して分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。4年生では、これらの経験を活かして、自分の好きなテーマで、卒業研究を行います。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合っていけるような仲間に出会えることは間違いありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林 正人 ゼミナール

演習のテーマ

Python によるデータ分析

演習の内容

人気のコンピュータ言語 Python を学び、データ分析に応用していく。

データサイエンス 100 本ノック構造化データ加工編ガイドブック

を用います。Python の習得には2年間はあまりにも短いので、自主的に情報を収集し、参考書をよみすすめる意欲のある学生を希望する。

プログラミングという作業は人によって向き不向きもあり、ゼミの応募前に少しでもプログラミングを体験しておくのが望ましいので、Anaconda というアプリをインストールし、そこで python を少しいじっていることを応募の条件とします。Anaconda のインストールの仕方は web 上に色々記事がありますが、ゼミ応募を考えている方は小林 cobaya@eco.meijigakuin.ac.jp に御連絡ください。

学習内容の性格上、仲間と議論をしながら学習をするという通常のゼミのスタイルとはちがうので、がっかりしないように。

齋藤 隆志 ゼミナール

演習のテーマ

労働経済学の実証分析

演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。4～5人のグループを作り、労働経済学のテーマで興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。

皆さんには、今のうちに労働経済学ではどのような研究テーマがあるのかを、日本経済新聞の「経済教室」や日本労働研究雑誌の「学界展望」、また授業で紹介される本などを読むことで知ってもらいたいと思います。ゼミの応募書類や面接でも、その質問をします。分析手法など専門的なことはわからなくて当然なので、労働経済学にはどういうテーマがあるのか、その中で自分が何に興味を持っているのかを言えるようになってほしいのです。なお、ゼミに入ってからテーマを変更することは問題ありません。

3年生の春学期にグループの研究テーマを決め、その後関連文献（研究書、論文）を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ります。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。つまり、毎週のゼミの時間はインプットの時間というより、アウトプットの時間になります。インプットは労働経済学や人事経済学、さらに計量経済学や政策評価の経済学を中心とした講義、さらに研究に必要な知識やスキルの自学自習によって行います。

十分なインプットと少しの勇気があれば、自分のグループの研究レベルを高めるだけでなく、他のグループの報告に鋭い質問や有益な提案をすることができ、そのグループの研究の質を高めることに大きく貢献できます。こうして普段から鍛えていれば自信が付き、発言内容も単なる感覚や狭い経験だけではなく客観的・学術的な根拠に基づいたものとなり、合同ゼミでも積極的に他大学の報告者と議論できるようになれるはずです。

4年生は卒業論文に取り組みます。グループ研究とは異なり、個の力を発揮してもらいます。限りある時間を上手にマネジメントして、就職活動やその他の活動と両立させ、教員のサポートの下で完成を目指します。これからの社会では、卒論執筆で鍛えられた能力は必ず役に立ち、長い目で見ると書かなかった学生とは大きな差が付くと思います。

勉強以外にも、ゼミ生は毎月イベントを企画します。野球観戦、博物館等の見学、そして中でも夏合宿は大いに盛り上がります。このようにゼミとしての活動が多いため、一人一つ係を担当して運営をスムーズに進めてもらうことになります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ではありますが、学生生活が充実することは間違いありません。

齋藤 弘樹 ゼミナール

演習のテーマ

ゲーム理論とその応用

演習の内容

ゲーム理論やミクロ経済学とその周辺分野を中心に学びます。3年次はグループワークが中心となります。グループごとにテーマを選択し、自由な形式で報告・討論をします。過去のゼミでは、ゲーム理論の基礎、行動経済学、マッチング理論、オークションなどをテーマとして扱ってきました。4年次では、個別のテーマに基づいて研究報告を行い、ゼミ生・教員との議論を通じて卒業論文の完成を目指します。

本ゼミでは、自立的・能動的な学習態度が強く求められます。また、ゼミ生一人一人が何らかの役割を持ち、ゼミの行事には積極的に参加することも求められます。

坂本 陽子 ゼミナール

演習のテーマ

空間経済学、応用計量経済学

演習の内容

2024 年度は B ゼミを開催します。卒業論文の指導をすることができませんので、応募の際はご注意ください。また、留学のために休学する可能性のある学生も指導することができませんので、あらかじめご了承ください。

本ゼミ

本ゼミは、火曜日の 3 限に 3、4 年生合同で行います。2023 年度は、教員が選んだ英文記事についての発表をグループごとに行っています。

サブゼミ

サブゼミは主に 3 年生を対象として、火曜 4 限に行います。サブゼミには各自ノートパソコンを持参してもらい、まずは Stata というソフトウェアを使ってデータ分析の方法を勉強します。Stata の使い方について一通り学んだ後は、班に分かれてグループワークをしてもらいます。グループワークの成果は、11 月の合同ゼミで発表してもらうほか、12 月にグループ論文として提出してもらいます。

その他

ゼミは学生が主体となって運営していくものですので、どのようなゼミになるかはゼミ生一人一人の姿勢にかかっています。ゼミ活動はある程度の時間的拘束を伴うということを理解した上で、それを厭わず積極的にゼミ運営に参加する意志のある学生を 6 期生として募集します。

佐々木 百合 ゼミナール

演習のテーマ

金融・国際金融

演習の内容

佐々木ゼミでは、金融、国際金融に関連するトピックスを取り上げて研究する。具体的には、まず広く浅く金融・国際金融の知識をつけるためにテキストを輪読して研究上必要な基礎的な内容について学習する。次に、トピックを決めてそれについてグループで研究をすすめ、ゼミ内や他大学のゼミとディベートをすることで理解を深める。その後ゼミ内で研究発表を行う。また、月に数回コンピュータを利用して、テーマに関連したデータを集めて統計的に分析したり、研究成果をプレゼンテーションしたりする。その他、ゼミでは株式運用レース、投信レースに参加したり、見学・合宿・コンパなどの課外活動も行う。

参考として、ゼミで扱うトピックや、卒論に取り上げる題材は、例えば「日本の金融政策の検証」「為替相場の貿易収支への影響」「フィンテックの影響と今後の展望」などである。

ゼミは学生中心に進めるので、しっかり学びたいという気持ちを持ち、積極性のある学生を希望する。

白井 誠人 ゼミナール

演習のテーマ

日本経済論(特に就職先企業の経済分析)

演習の内容

本ゼミはBゼミでの募集です。

3年生の1年間でゼミの講義は終了するため、4年生の講義や卒業論文の執筆指導は行いません。

また、3年生の時点で海外に留学する学生は応募できません。

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

3年生： 近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、実際の企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。

応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

同時に春学期と夏休みのサブゼミで就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期に経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

4年生： Bゼミでの募集のため、4年生のゼミ講義はありません。

鈴木 岳 ゼミナール

演習のテーマ

政治哲学・公共哲学

演習の内容

現代の民主的な社会の市民にとって、どのような政策・制度が正当であり、市民はいかなる自由と権利を持ち、いかに行動するべきであるかといった事柄に対して判断を下すことは、各人に課せられた責任である。責任ある判断とは、もちろん単なる伝聞や「世間の常識」ではなく、自身による理性的根拠を伴う判断を意味する。残念ながら、経済学の知識だけではこうした事柄を判断するために十分な理性的根拠を得ることはできない。またそもそも、こうした事柄の全てを教えてくれる一つの学問などは存在しない。これらは政治哲学に属する問題であるが、「哲学」とは出来上がった学説・理論を教示する学問ではなく、ただ同じ哲学的関心を持つ仲間との議論を通じて少しでも理解を深めていこうとする一種の実践である。

そこでこのゼミでは、M. サンドル著『これからの正義の話をしよう』の輪読を通じて政治・公共哲学の諸問題を議論する。ゼミ生は担当として割り当てられた箇所を数ページのレジュメにまとめてゼミの初めに発表し、その後で各人は質問や意見を述べて、議論を行う。こうして始まった議論が首尾一貫したものとなるか、何らかのまとまった結論を得るにいたるかどうかは、全く分からない（大抵はそうはならない）。つまり哲学においては、何らかの「成果」と呼ばれ得る結論を生み出すことは一般には極めて難しい。しかし自分とは異なる意見を聞き、考えを述べ合い、説得に努め、相手の考えを納得した場合にはそれを受け入れる、といった過程（それが議論である）を通じて自分自身の意見・考えを深めることができたならば大成功と言うべきなのである（実はこれすらもまた大変に難しいのであるが）。

従って、こうした議論に加わらずにただ他のゼミ生のやり取りを聞いているだけでは、収穫は少ないだろう。教科書について自分の担当箇所でないところも予め読んでおき、積極的に議論に参加することが望ましい。またこのゼミの目的はあくまで上に述べた諸問題についての各人の考えを深めることであって、サンドル教授の著書に対する理解度を試すことではない（もちろんゼミは教科書に対する十分な理解を前提として進めるが）から、教科書のみならず、日ごろからニュースや各種報道に注意を払い、現代社会（かならずしも日本に限らない）で生じている諸問題に関心を持つこともまた大切である。

宋 立水 ゼミナール

演習のテーマ

開発経済学と東アジア地域経済に関する研究

演習の内容

経済発展は、世界各国の共通の課題である。本ゼミでは、東アジア地域の経済発展問題を取り上げ、経済・技術的、歴史・文化的、社会・制度的状況について、開発経済学のアプローチでの研究検証を行う。

三年次では、主に開発経済学の理論・実証方法を学習する。四年次では、皆さんが学習した理論・実証方法を応用し、自由に設定した研究を行い、卒業論文を作成する。

ゼミの学習方式は、学生諸君を主体とする個人予習—2～3人グループ学習—グループによる発表—全体討論という形式を採用する。

東アジア地域のような発展途上国の経済発展諸問題を考察するとき、経済学の諸理論（仮説）の習得は当然だが、基本的な分析方法論としての統計学など基本知識の学習を薦める。

ゼミの学習効果を高めるために、読書をすること、思考（仮説を立てる）をすること、議論をすることを全員に要求するが、意欲のある学生を大歓迎する。

なお、三年次のゼミ合宿の代わりに、教員が担当するフィールドスタディ C（中国社会経済現地考察）の実習科目の履修を薦めます。

高松 慶裕 ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は，狭義には政府が資金をどのように調達し，どのように支出するか，を研究する学問で，広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は，租税（所得税，消費税，法人税など），公債（財政赤字，財政再建など），社会保障（年金，医療・介護保険，生活保護など），地方財政・政府間財政などですが，他にも予算制度や財政政策・経済政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは，広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

3年生：最初に財政学の教科書を輪読し，財政学の基礎理論や考え方，制度について学び，何が問題かを考察します。その後（同時並行で），4名前後のグループ毎にテーマを設定してもらい，共同研究を行います。その成果は論文にまとめ，11～12月頃の他大学との合同ゼミ（2023年度は弘前大学金目ゼミ・広島修道大学河合ゼミとの3大学合同ゼミを予定）で発表します。加えて，各自テーマを設定し，年度末までに卒業論文に向けた中間論文（1万字以上）を提出してもらいます。

4年生：各自のテーマに基づき，卒業論文（2万字以上）を作成します。春学期は3年時に提出してもらった中間論文の添削指導から始めます。その後は，ゼミでの進捗報告や個別指導を経て，卒業論文を完成させていきます。

なお，3年生の共同研究の進捗報告や4年生の卒論中間報告（11月頃），卒業論文発表会（1月・卒業論文提出後）は3・4年合同ゼミで行っています。

このように，高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。グループの共同論文，中間論文，卒業論文と最低3回は書く機会があり大変かもしれませんが，勉強になるはずです。財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し，それを経済学的に分析し，結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

このゼミは2020年度開設の比較的新しいゼミです。ゼミの恒例行事として，歓迎会・懇親会や夏合宿なども行っています。特に共同研究を学外で発表する（他大学との合同ゼミを行う）ためには，ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり，主体的に関与する必要があります。このゼミを教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

田中 淳一 ゼミナール

演習のテーマ

歴史的にみるヨーロッパ社会経済の展開

演習の内容

このゼミでは、近現代を中心としたヨーロッパ諸地域の社会経済の展開について、地域史やグローバルな観点も含めた歴史的視野から検討していきます。

ヨーロッパはもともとユーラシア大陸の辺境にありながら、ギリシャ・ローマの哲学や技術、キリスト教の信仰・文化などを背景にしつつ、大航海時代、工業化などを経て近代に至ると、一地域を超えグローバルな世界システムの中核を占める勢力として台頭しました。最近こそアメリカやロシア、そして日本、中国、その他のアジア地域も台頭し、その政治的・経済的な影響力の大きさは以前ほど意識されなくなりましたが、ヨーロッパもEU(欧州連合)を形成するなどして、今でも一定の地位を保っています。

それだけではありません。近現代に発展した思想・技術・学問の源は多くヨーロッパにあり、現在でも近代ヨーロッパの作り出した価値規範は世界の経済、文化、社会の在り方に大きな影響を与えています。そのように考えたとき、ヨーロッパの社会経済の歴史を学ぶことは現在の我々の価値観の根本を問い直していくことにもつながるはずです。

このゼミでは以上のような問題認識を背景に、現代に至るヨーロッパの社会経済の歴史的展開を学びます。さらにそのうえで個々の関心のあるテーマを設定して分析や考察に取り組み、その成果を卒業論文の形にまとめることを目標とします。具体的には以下のような形で授業を進行する予定です。

3年次は、ヨーロッパの経済史や地域史、グローバルヒストリーなどについていくつかの基礎文献を受講者全員で講読していきます。講読する文献は受講者の関心や要望も考慮して決定し、受講者は文献のレジュメ作成やプレゼンテーションを通じて、ヨーロッパの社会経済の歴史に関する基礎知識を固めつつ、卒業論文のテーマを決定していくことになります。論文のテーマについては、ヨーロッパに関係するものであれば時代や範囲はある程度自由に設定することができます。

4年次は、前年に決定したテーマに従って具体的に卒業論文を執筆することが目標となります。授業については毎回各自の卒業論文の研究の進展について報告してもらい、それについて議論していきます。

ゼミの授業は学生も主体的に参加して共に作り上げていくものです。歴史と調べることが好きで意欲ある方の参加を期待しています。

田中 鉄二 ゼミナール

演習のテーマ

食料・環境・エネルギーの経済学

演習の内容

私のゼミでは学生が食料、環境、エネルギーの分野をグローバル経済の観点から分析し、研究発表をする事を考えておりますが、学生が主体的に運営をしてもらいたいため、学生からの提案を十分に考慮したいと思っております。

食料、環境、エネルギーは注目を浴びている SDGs の重要な項目であり、それぞれが互いに影響し合っています。例えば気候変動を抑制するためにトウモロコシ、大豆、菜種油、サトウキビ等からバイオ燃料が生産されています。それにより家畜の餌であるとうもろこしの需要が増加し、価格が高騰し、食肉価格も上昇すれば、食料安全保障を脅かす原因となります。世界は持続可能な社会の構築を目指していますが、どのようにバランスをとるべきかを考える必要があります。また、農産物（大豆、小麦など）やエネルギー商品（原油、天然ガスなど）は金融市場で取引され、グローバル経済や各国の経済政策の影響を大きく受けます。

SDGs は現代のキーワードになっていますので、これらの分野を理解することはどの学生の将来にも非常に有益です。また、金融市場も勉強し、グローバル経済の動向も予測する事ができることを目指します。私のゼミでは「英語で学ぶ」を重視したいと考えています。英語で書かれた論文や新聞記事などの資料を読み、短いレポートを英語で書き（上手に書けなくても構いません。トライする事が重要です。）、それを基にプレゼンテーションをしてもらいたいと思っております（可能であれば英語によるプレゼンテーションにしたいです）。卒業論文のテーマは自由に決める事ができます（必ずしも上のテーマである必要はありません）。

英語は誰でもできるようになりますし、皆さんが思っているよりも難しくありません。英語ができれば、情報量が増え（インターネット上の情報の 60% が英語で、たった 2% が日本語です。）、世界中に友人を作れ、国際的にビジネスも出来るようになります。将来の目標に向かって頑張っている学生が来てくれたら、とても嬉しいです。

中村 友哉 ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学1、2」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学1、2」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

室 和伸 ゼミナール

演習のテーマ

マクロ経済学

演習の内容

マクロ経済学は、国内総生産（GDP）、物価、失業率の動向を把握し、一国経済全体を定性的・定量的に分析する。経済の仕組みや法則性がわかれば、経済予測や資産運用などにおいて、私達が生活していく上で役に立つ。さらに資本主義経済を深く理解することにつながる。

マクロ経済学の重要分野である経済成長について考察し、経済発展の謎を解き明かそう。長い歴史を振り返ると、経済成長とは 1880 年頃から 1973 年までの約 100 年間で起こった特別な現象だったのだろうか？それとも今後も持続的な成長が可能なのだろうか？豊かな暮らしをしている国と、貧しいままの生活をしている国があるのはなぜか？経済成長のために不可欠な要因は何かについて考えてみよう。

所得格差の問題も重要である。労働分配率の低下や賃金格差の上昇といった現象をどのように説明できるだろうか。近年、物価の継続的な上昇（インフレ）が進行しつつある。インフレの時代と呼ばれた 1970 年代の経済と現代の経済を比較して、共通点と相違点を見つけよう。マクロ経済現象が起こった背後にあるメカニズムを考察することが重要である。

ゼミではマクロ経済学に関する文献を輪読する。あらかじめ該当箇所を割り当てておき、学生がプレゼンテーションをする。課外活動やゼミ合宿にも積極的に参加すること。ゼミはともに学び合いの場であり、教育を通じた人間形成の場としたい。

飯田 浩司 ゼミナール

演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

演習の内容

このゼミでは、「コンテンツビジネス」に関して、ビジネス面と法律面での問題点を検討します。一口にコンテンツビジネスと言っても、出版産業、音楽産業、映画産業、アニメ産業、ゲーム産業、演劇産業、放送業、インターネット産業など多岐にわたっていますが、このゼミではこれらのコンテンツビジネスの中から、ゼミ生の興味に応じて対象を選び、取り上げたいと思います。

ビジネス面に関しては、それぞれの産業の仕組み、今日的課題や将来像の考察が中心となり、また、法律面に関しては、著作権法の考察が中心になりますが、その他のもコンテンツビジネスに関する法(例として、契約法、独占禁止法等)についても取り上げることができればと考えています。

3年次は、コンテンツビジネスを理解する上で不可欠な著作権に関する知識を習得した上で、コンテンツビジネスの各業界について、グループまたは個人で予習の上、発表してもらうことを考えています。さらに、コンテンツビジネスに関する争点についてグループに分かれてディベートを行う予定です。4年次は各自テーマを設定して卒業論文を作成します。

コンテンツビジネスを対象とするゼミなので、コンテンツビジネスの現場で働く人の話を聞いたり、実際のコンテンツビジネスの現場(レコーディングスタジオ、テレビ局、新聞社等)を見学したりするなど現場の雰囲気を感じ取ってもらえる機会を設けたいと考えています。

ゼミ合宿や懇親行事も実施する予定であり、具体的な内容についてはゼミに参加する皆さんの希望を基に決めたいと思います。

五十嵐 千尋 ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史、日本経済史、産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3年次の演習 A1 では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジュメを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていきましょう。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきましょう。

続く演習 A2 では自らテーマを設定し、ゼミ論文を執筆します。その際、論文執筆のための記述資料やデータの探し方も習得します。

4年次の演習 A3・A4 では、各自が興味を持った事象について卒業論文のテーマとして定め、3年次の経験を生かして自らの問題意識から課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。主に個人で作業を進めていくこととなりますが、定期的にゼミで作業の進捗を報告し、全体での中間報告も行います。演習 A4 では卒業論文の完成を目指します。

企業博物館や工場見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行いたいと思います。

稲山 健司 ゼミナール

演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読みます。文献の検討を通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。
- 事例研究を行います。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。これまで、食品、飲料、化粧品、家電製品、コンビニエンスストア、飲食店、テーマパークなどに関する事例を扱いました。

大竹 光寿 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、消費文化、ブランド・マネジメント

演習の内容

本ゼミナールの狙いは、ユニークな研究を行うことを通じて、学問を深めるだけでなく、社会に何らかの貢献をし、得たものを卒業後の活動に繋げることにあります。取り上げる題材は、企業経営として「マーケティング」、経営環境として「消費者行動」や「消費文化」、そしてそれら2つを結びつける「ブランド」です。文化という視点からマーケティングと消費との関係を検討し、大企業のみならず、スタートアップ企業にも着目して、ブランド・マネジメントについて理解を深めていきます。

ゼミナールでは、個人研究とグループ研究を並行して行います。個人研究については、卒業論文として、自分にとって切実な問いを設定し、自分なりの答えを出す作業を行います。そのために、関連するテーマの研究論文や学術書、研究方法に関する文献を読みその内容をゼミ生らと共有・議論したり、フィールド調査に出かけたりします。また、研究成果をゼミで随時発表して、ゼミ OBOG を含む実務家からもフィードバックをもらい、研究を深めます。グループ研究に関しては、関心が近いゼミ生とチームを組んで、現場でブランディングに携わる方々と接しながら、社会に対して何らかの貢献ができるようなプロジェクトを企画・実行してもらいます（下記参照）。

こうした個人研究とグループ研究を通じて、実務の現場との接点を学生なりに見つけて、学問と実践を行います。指導教員が 2025 年度に在外研究を予定しているため、今回は B ゼミですが、要望があれば 4 年次にゼミ生が集える場を設定します。4 年次の就職活動を控え、3 年次に集中してゼミ活動に取り組みたい学生、合宿、課外活動や OB・OG 会の運営などにも積極的に携わる学生の参加を期待しています。

※グループ研究のテーマ（一例）：各チーム（3 名ほど）で秀逸なブランドを探して、ブランドブック（創業者、社長、職人、マーケター、取引先、顧客、ジャーナリストなど、そのブランドに関わる方々を実際に取材し、写真や文章などでブランドの本質をまとめた本）を作成する。そして、取材内容や共同プロジェクトの結果を社会に発信する。つまり、単に取材するだけでなく、自らコンテンツのマーケティングも行うことになる。取材を通じて実務家から学んでいるのでそれが活かせる。実務家や学者の本もそれに合わせて読み込む。協力先企業へのアポ取り、本社での企画提案のプレゼンも含めて学生主体で行う。学生の取り組み自体がメディアから取材を受け、取り上げられることもある。

・主な企業とブランド：アサヒ（玄米ブラン、カルピス）、クックパッド、SALASUSU、資生堂、D&DEPARTMENT、富士フイルム、堀口切子、ミリメーター、森ビル、など

尾畑 裕 ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計

演習の内容

本ゼミは、2022 年度から始まった新しいゼミです。第 1 期生はひとりしかいませんでしたが、2 期生である今年度の 3 年生は 8 人です。

本ゼミでは、原価計算と管理会計をテーマとします。みなさんは、原価計算と聞いてどのようなイメージを持ちますか。資格試験や検定試験の試験科目を連想されるかもしれません。常に電卓をたたいているイメージがあるかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は、実に多様で、創意工夫が要求されます。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。しかも原価計算システムは、まだまだ新しい発展のある領域です。近年では工場の設備の稼働をセンサーで把握し、1 品 1 品の実績作業時間を把握してそれを蓄積して IoT データをコストマネジメントに役立てる試みもなされています。このゼミでは、実務における多様な原価計算システムに対応できるように、3 年次の春学期は Python を使ってオブジェクト指向の考えかたで原価計算をささえる様々な概念をクラス（型）として定義してそれを組み合わせて計算のロジックを組み立てていく演習を行います。電卓片手に計算を行う原価計算のイメージとはずいぶんと違います。みなさんの想像力をフルに発揮していただきます。

Python は入門時のハードルが低いプログラミング言語です。初歩から丁寧に指導しますのでプログラミングははじめてというひとでも大丈夫です。3 年次の秋学期からは、身につけた Python のスキルを応用して、経営組織のなかでおこる現象をエージェント・ベース・モデルのシミュレーションで再現する実験を行いたいと思います。エージェント・ベース・モデルのシミュレーションは、ミクロレベルでの簡単なルールがエージェント同士あるいは環境とのインターアクションを通じてマクロ的にどのようなパターンを出現させるかを観察する手法です。参考にするプログラムはこちらで用意します。管理会計の問題をシミュレーション使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思います。

4 年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3 年次でせっかく Python を習得するので、Python を活かした研究テーマを推奨します。それにより非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思います。今年度から夏合宿を行うことにしました。来年度も夏合宿を行う予定です。

北浦 貴士 ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の経営分析

演習の内容

このゼミでは、歴史的な視点をはじめとする様々な観点から、日本企業の経営を検討しています。ゼミ生同士が仲良くなり、居心地が良い雰囲気を作ることを最も重視しています。3年生では、教員が指定した日本企業の経営を事例にして、日本企業の経営に対する分析方法を学びます。4年生では、ゼミ生が設定したテーマに基づいて、卒業論文を執筆します。また、単位は付与されませんが、2023年10月より予備ゼミを4回程度実施する予定です。

2024年度の演習では、オリエンタルランド（東京ディズニーリゾート）の経営分析を行います。2名の学生によって構成される5つのチームで、各テーマを調査研究していきます。対象企業の経営戦略に影響を与えと考えられる主要なイベントは、新エリアの開業であり、この点を重視して考察します。

ゼミにおいてコアとなる活動は、体験学習です。体験学習は、1泊2日の日程でパーク及びホテルで実施されます。2年間を通じて、2つのパークとパークに隣接する2つの主要ホテルを訪れます。体験学習の最大のメリットは、文献や教室内での議論からでは、明らかにならない、実際の経営現場の状況を調査できる点です。事前に、ゼミの授業内で、チームごとに話し合っ、調査内容を設定します。パークに赴き、実際に調査を実施した上で、各人が調査結果を訪問後にゼミで報告します。公開ゼミにおいて、夏休みに実施した体験学習による調査結果を報告する予定です。

それ以外にも、日経テレコム21を用いた新聞記事分析、SWOT分析などの経営戦略分析、アンケート調査、有価証券報告書や決算説明会動画を用いた財務分析を順番に行なっていきます。これらの分析方法を知らない方でも分析できるように、最初に各方法について丁寧に勉強した上で、実際の企業に当てはめて分析を行います。

このゼミでは、経営学に関する基礎的な理論をベースにして、実際の企業活動について、ゼミのメンバーと協力して考察を加えていきます。そのため、このゼミは、(1)チームのメンバーと協力して勉強したい方、(2)理論より実際の現場に関心のある方、(3)企業経営に関する基本的な分析方法を1から勉強したい方に向いているゼミです。

佐藤 成紀 ゼミナール

演習のテーマ：

企業の会計システム

演習の内容：

企業の経営にとって会計システムは、その財政状態や経営成績に関する情報を提供するという、重要な役割を担っています。

ゼミナールでは、こうした会計システムに関する研究を、ゼミ生一人ひとりが主体的に進めることになります。テーマは会計に関連があれば自由に選択できます。将来就職を希望している業界の企業についての収益性や安全性の分析、会計制度や会計ルールの仕組みや問題点を考察するのもよいでしょう。あるいは、経営やマーケティングと会計の関わりを調べてみることも、有意義な研究です。

実際、各自のテーマを、すぐに見つけることは、なかなか難しいものです。そのような場合、基本の確認から始めると、自分の問題意識を発見できることが多いものです。そうした観点から3年次春学期は、英文教材を用いて会計の基本を学ぶことから始めます。いま、世界の決算書のグローバル・スタンダードとなっているのは、国際財務報告基準などに基づく英文決算書です。会計情報を英語でも理解できる人材がますます求められている、現代のビジネス環境への適応能力を身につけていきます。

こうしたウォーミングアップに続いて、3年次春学期の後半からは、ゼミ生各自のテーマ探しが始まります。毎週、順番に、関心のあるテーマについてのプレゼンテーションをしていきます。ゼミでの個人報告とディスカッションを通じて、自分のテーマを模索して行くわけですが、そのプロセスがとても大切です。参加者全員から色々な意見が出されて、それを参考にしながら、自分のテーマへのアプローチを進めます。4年次では、卒論の完成を目指した個人報告を、さらに積み上げていきます。最初に選んだテーマから、次第に別のテーマに関心が移っていくことも多いのですが、それは、テーマを真剣に探している証拠でもあり、まったく自然なことです。誰もが、迷いながら目標を探すものです。

ゼミでは、「学び」の楽しさを実感してもらえたらと思っています。自分で考え、自分の意見を持つことはとても大切です。ゼミでの報告について出された質問をしっかりと把握し、それに対して的確なリアクションができるように、コミュニケーション能力を高めていきましょう。みなさんが主役となるゼミナール体験を是非、楽しんでもらえたらと思っています。

中野 暁 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、マーケティング・リサーチ

演習の内容

中野暁ゼミナールでは、「マーケティング」と「マーケティング・リサーチ」をテーマに活動していきます。特に、消費者の意識や行動に焦点をあてて、調査を行うことで、その理解を図る方法について学んでいきます。

マーケティング・リサーチの中には、大きく分けて定量調査と定性調査という 2 つの調査方法があります。ゼミ活動の中では、まず、定量調査をしっかりと行えるような学習と実践を行っていきます。具体的には、マーケティングや消費者行動の理論を輪読と議論を通して勉強していきます。それと並行して、3 年次には、グループで問題解決型の実践を行っていきます。ここでは、チームメンバーと協力して、マーケティング課題とテーマを設定して、データを収集して分析するという一連の流れを経験して頂きます。その経験に基づいて 4 年次からは個人で卒論に取り組みます。

一方で、定性調査に関しては企業と連携した取り組みを行っています。企業のマーケティング担当者が抱える課題に対して、Z 世代の学生の皆さんの視点から提案するというワークショップ型の実践です。この過程でグループ・インタビュー手法に関する理解を深めていきます。また、実務家と実際に接することができるので、早いうちから社会に目を向けて活動していくことができます。

これ以外にも、社会の第一線で活躍するマーケットターやマーケティング・リサーチャーから話を伺う機会なども毎年設けています。また、ゼミメンバーの懇親を深める行事も実施しています。

積極性に活動していく志を持った学生の応募を期待しています。

西村 三保子 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力しましょう。

3 年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12 月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

4 年次は、春秋通して卒業論文の執筆に努め、1 月の卒論提出を目指します。

また、9 月に 3・4 年生合同の夏合宿(2 泊 3 日)を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

西山 由美 ゼミナール

演習のテーマ

「税のエキスパートをめざす」

演習の内容

ビジネスに深くかかわる税(所得税・法人税・消費税・相続税)を中心に、これらの税の仕組みを理解したうえで、社会経済と税の関係をさまざまな視点から考察します。よりよい社会やビジネス環境を実現するために、何が問題で、どのような解決方法があるのか考えていきましょう。

税理士、国税専門官を目指す人は大歓迎。また、民間企業の税務セクションでも活躍できる「税のエキスパート」をめざしてください。

【ゼミの進め方】

春休み中に予備ゼミを実施し、必要な資料や情報を収集するスキルを習得します。

春学期は、各人が興味をもつ税に関するトピック(たとえば、環境税、酒税、消費税など)についてプレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。

夏休み中のゼミ合宿(1泊2日)では、秋学期の統一テーマ(グローバルビジネスとローカルビジネスと税)の予習をします。

秋学期は、「グローバルビジネスとローカルビジネスと税」について、各人がトピックを選び、プレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。秋学期のテーマは卒論のテーマに繋がることが多いので、アンテナを大きく広げてテーマをみつけましょう。

【注意事項】

- ① ゼミの内容は、税法の基礎知識を必要としますので、「ビジネスのための税法1」(春学期)および「ビジネスのための税法2」(秋学期)をできるだけ履修してください。
- ② ゼミの運営には全員がかかわるよう、「一人一役」で業務を分担します。
- ③ ゼミは、3年生と4年生の合同ゼミです。(通常、木曜日3時限が3年生ゼミ、木曜日4時限が4年生ゼミです。3時限が3年生と4年生による本ゼミ、4時限がサブゼミとなります。)

浜口 幸弘 ゼミナール

演習のテーマ

企業戦略と人工知能 AI

当演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業戦略（主に、マーケティング戦略）に人工知能（AI）を利用する方法について、考察してゆきます。すなわち、利用者側の立場から人工知能の仕組みを基礎から理解し、さらに行動心理学の学習を踏まえたうえで、人工知能を用いた企業戦略（主に、マーケティング戦略）の実際と可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AI の基本的仕組みを理解したうえで、行動心理学の視点から AI の思考を分析し、最終的に、マーケティング分野への AI の利用を考察します。続く 4 年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、状況が十分よければ、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 卒業論文を書く学生（ただし、4 年次での就活時は、就活を優先して可）。
2. 人工知能と人間の思考の違いについて興味を持っている学生

教科書は『経営戦略入門』（日本経済新聞社）

人工知能および行動心理学に関する本については、適宜選択。

林 祥平 ゼミナール

演習のテーマ

組織行動論，経営組織論，人的資源管理論

演習の内容

本ゼミナールでは，組織・集団・人（そしてそのマネジメント）について学びます。組織も集団も人の集まりであるため，突き詰めれば本ゼミの関心は人そのものです。組織における人について心理学的アプローチから学び，深く考える目を養います。例えば，「どうして安い給料でもイキイキ働ける人があるんだろう」「緊張感があつた方が頑張れるのはどうしてだろう」といった身近な疑問に目を向け，自分なりの答えを導き出し，説得力のある説明ができるようになることを目指します。

組織行動論はマネジメントの議論と表裏一体です。したがって，組織の中の人について学ぶ中で，「どうしたら従業員の強みを活かせるんだろう」「どうしたら仕事を楽しめるようになるんだろう」という管理の視点も大事にします。

3 年次は，テキストの輪読とグループワークに取り組みます。テキストには，組織内の個人心理や集団心理を扱った本を使い，広く基礎知識を身に付けていきます。また各回のテーマに沿ってディスカッションをし，考える癖をつけていきます。グループワークは3-4 人で組んでもらい，グループで決めたテーマについて学生が調べ発表し，議論します。4 年次には，3 年次の経験を活かして，各学生が興味のあるテーマを選び，卒業論文に取り組んでもらいます。

ゼミ合宿，他大学との交流など学生の意見を積極的に取り入れながらゼミ活動を行っています。本ゼミが学生にとってより良いコミュニティになるよう，自主的にゼミ作りに加わってくれる学生の参加を期待しています。

森田 正隆 ゼミナール

演習のテーマ

情報技術とマーケティング戦略（知的能力・価値観・行動原理・人間性の体得）

演習の内容

本ゼミナールは、「情報技術とマーケティング戦略」の関係について考察し理解を深めていくことによって、これからの情報社会を自分自身で分析して意思決定し、そして創造的に行動していけるだけの知的能力・価値観・行動原理・人間性を養うことを目的としています。

輸送や通信の分野における技術革新は、社会体制はもちろん、生産と消費の両面に対しても創造的破壊をもたらし、次代の扉を開く強力なパワーを秘めています。

そこで、本ゼミナールでは、情報技術とマーケティングの関係について、過去の歴史や理論から学ぶとともに、現在世の中で起こっているさまざまな経済事象や経営問題を取り上げ、それらを理論的かつ経験的に考察し分析するという作業を繰り返しおこなっていきます。

また、ケースディスカッション、ロールプレイング、ショートスピーチ、ビジネスプランなどの体験型・参加型の授業を数多くおこないます。

そして、並行してグループ研究などの自主活動を課し、年末には研究成果発表会をおこないます。

なお、正規の授業時間にさらに追加 1 コマ分を加えて、毎週 2 コマの連続授業をおこないます。自主的なグループ研究活動も含めてゼミのために割いていただく時間がかなり多くなります。

それらの負荷を納得できる方、厳しくはあるが内容の充実したゼミナールを研鑽と成長の場として前向きに捉えることができる方のみご応募ください。

下記サイトに、ゼミの詳しい紹介を記載しています。よろしければご参照ください。

<森田正隆ゼミナールの紹介 #2023>

<https://bit.ly/44o5CcJ>



吉田 真 ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、EUの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとJリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Bゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Finding Leadership in Literature

演習の内容

In this seminar, we examine the concept of Leadership through both non-fiction and fiction. What characteristics make or break a Leader? Can we predict whether a person will be a successful leader or not based on those characteristics?

In the spring semester, students read non-fiction texts in English to prepare for class. During class, students are expected to participate actively and enthusiastically. As students are expected to write short summary and response papers, there is also instruction in academic writing.

In the fall semester, students read texts of fiction. Class discussion focusses on the character of the protagonist, and how that character influences the choices made. Students will also write short response papers.

With a better understanding of the concept of Leadership, it is hoped that students will be better equipped to choose good mentors and become good leaders themselves.

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展

演習の内容

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、デジタル社会における先進企業の経営戦略について、とりわけビジネスモデルの側面に焦点を当てて研究することです。

3年生では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。例えば、YouTube、TikTokなどの動画配信のプラットフォームビジネスや、Instagram、TwitterといったSNSのプラットフォームビジネス、あるいは、NetflixやDAZNといったサブスクリプションサービス、そして、いわゆる“ガチャ”を軸としたスマホゲーといった現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について議論しながら理解を深めます。

3年時の前半では、上記のような実世界で起こっている現象面を中心に取上げますが、後半では、翌年の卒業論文執筆に備え、その背後にある理論を取り上げる割合を増やしていく予定です。

4年生では、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年時に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。研究のアプローチは大きく分けて2つが考えられます。1つ目は、3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、これまでの理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す研究アプローチです。2つ目は、既存の理論に基づき仮説を構築し、アンケートやその他の方法で得られたデータの分析を通じて仮説を検証するアプローチです。

現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれませんが、2年をかけてじっくりと力を養っていきましょう。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

また、ゼミでの活動を通じて、取組内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データ分析を使って社会の課題について考える

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた実証分析が重要視されています。そのため、本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を得て、論文が執筆可能な水準となることを目標にします。2年間という限られた期間で卒論研究が完了することを目指します。そのため、参加者は意欲的にゼミに参加し、積極的にスキルを身に着けていくことが求められます。

(演習の進め方)

・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Rを用いた分析も行う時間を設けます。輪読の内容などは、参加者の興味・関心を反映させる予定です。

・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた実証分析であることが前提になりますが、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(例)

- ・不祥事などの特定のイベントは、企業の価値に影響を与えたか？
- ・近年の金融政策は、経済を活性化させるほどの効果があったか？
- ・野球などのスポーツについての統計的分析も卒論として充分取り扱うことが可能

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。授業が成立しなくなるためです。

・本講義では、ゼミ開始時の数学・統計学・プログラミングの知識については特に問いません。ただし、実証分析が可能になる水準に到達するためには、参加者が意欲的に学習することが重要です。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

国際商取引論と実践的ビジネススキル

演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用するビジネス・経営のセンスとスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学びます。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、貿易相手国や販売・仕入先を定め、マーケティング戦略を考え、経費・資金繰りをマネージして決算書まで仕上げてみせます。自らが貿易商社を起業することで貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然に身に付けられるわけです。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読して発表したうえで、全員で討議します。他大学ゼミとの共同研究や企業幹部を招いてのビジネスプラン発表会も行い、採用に繋がることも多くあります。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンを目指します。必ずや皆さんは「B ゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進んで世界を舞台に活躍していることから、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第8期生よ来たれ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住 17 年、現在 レアメタル商社社長】

西原 博之 ゼミナール

演習のテーマ

演習のテーマ 国際経営論、異文化マネジメント、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理

演習の内容

同演習の研究対象は、「国際経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人材育成」、「インバウンビジネス」など、いわゆる企業の国際経営活動の「アウト」及び「イン」を題材として調査研究を行い、研究成果をまとめる。

研究論文のテーマは以上に関する内容となる。演習では国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることが目的である。したがって、演習を通して以下の能力を養う。

- 1) 情報機器を用いたプレゼンテーションの実践
- 2) 共同作業を通してレジュメ作成、報告を行うなど、プロジェクト管理能力の育成
- 3) ケース・スタディや実証研究を通して理論的な考察や分析能力の向上
- 4) 4 年間大学で学んできた集大成をまとめて卒業論文を作成し、期日に提出する。

演習では、以下の通りに進めていく。

第1に、国際経営に関する基本的な文献を輪読する。その際、少人数のグループにより、レジュメを作成して国際経営に関する基礎知識を養う。

第2に、国際経営に関する事例などを用いて討論を行う。その際、各グループが事前に課題を準備する。演習時間は、担当班が、プレゼンテーションを行った後、グループ間の質疑応答という形式で演習を進めていく。なお、事例に関連して実証研究などの方法論にも触れる。

第3に、卒業論文の執筆方法について、経済学部発行「卒業論文執筆の手引き」を用いて所定の形式を学ぶ。同時に、卒業論文のテーマの設定、フレームワークの作成、関連文献の収集及びまとめなどにより、設定した研究課題がふさわしいか、卒業論文にまとめられるか判断を行う。

卒業論文作成までの具体的な演習活動は以下の通りである。

- 1) 個々の研究テーマの設定（3 年次の秋学期に提出）
 - 2) 卒業論文タイトル及び研究計画の紹介（4 年次、春学期）
- * 報告、計画書の提出がない場合、秋学期の履修を許可しないことがある。
- 3) 中間報告（報告がなかった場合、卒論提出を許可しないことがある）
 - 4) 調査研究の結果についてプレゼンテーション（卒論発表会の準備など）
 - 5) 担当教員の許可を得た上で卒業論文を提出（年末までに原稿提出）

以上

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業の開示情報とその分析 ―投資意思決定における財務情報と非財務情報の有用性―

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。また、将来予測に不可欠とされる非財務情報にも焦点をあて、財務情報と非財務情報の関係や、非財務情報の課題などについて、検討をくわえていく。

具体的には、主として、次の内容を考えている。

- ① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
- ② 財務情報とその国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
 - 財務情報から考える M&A の成否
 - 研究開発活動・広告宣伝費とその後の企業業績推移
 - ブランド力と企業業績 などなど
- ③ 非財務情報の役割と課題
 - ESG 情報の国際比較とその有用性
 - 人的資源に対する投資と企業業績
 - 統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
 - などなど

マイヤーオーレ ヘンドリック ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

- 1) Developing research questions and designing a research plan.
- 2) Learning how to find good information sources.
- 3) Analysing information by using available frameworks from business and academia.
- 4) Confidently presenting findings through presentations and reports.
- 5) Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

山田 純平 ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

この演習は、3次から募集を開始しているので、原則として全員受け入れることを予定しております。また、参加者も少人数であることが想定されるので、ゼミ生の希望にそって演習を進めていきたいと考えています。たとえば、会計学や経営学の基礎的な内容を補足的に勉強したり、演習問題などを扱ってもいいです。

例年は次のような内容で演習を行っています。本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得することになります。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書进行分析し、それを基に、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。さらには、将来を予測して、企業価値の算定まで行う予定です。まずは、企業分析や企業価値評価について説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっていますが、今年度は参加者が少ないと思われるので、別の機会を考えます。

なお、本演習はBゼミなので、卒業論文の執筆は課しません。

3年次に、大人数の講義ではなく、少人数で会計学や経営学について学びたいという学生を歓迎します。

発 行 日：2023 年 9 月 1 日
2024 年 2 月 13 日更新
編集責任者：藤田 晶子
編 集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636
東京都港区白金台 1 - 2 -37